

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800398		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ市川国分		
所在地	千葉県市川市国分2-9-10		
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和3年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日1笑 利用者様の笑顔に繋がる心に寄り添ったケアを大切にミモザ市川国分にいる職員が利用者様を思う気持ち同じ方向を向いてこれからも、歩んで行けるよう普段からのコミュニケーションやスタッフ会議、ミモザの研修などを、今後も利用しながら前進していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)近くに公園やスーパーもある閑静な住宅街に立地し、車椅子用機械浴、死角のないリビングと広い廊下、スタッフ専用ルームなど入居者の安全と職員への配慮の行き届いた設計の開設4年目のホームである。2)一日一笑:「笑顔で、待つ・見守る」ことを大切にし利用者のペースに合わせた個別支援にチームとして取り組んでいる。3)管理者は職員とのコミュニケーションを大切にし、職員の声に耳を傾け、職員ひとり一人が遣り甲斐を感じられる職場作りに力を入れており、職員の定着率の高さに良く表れている。4)コロナ禍の中、入居者のストレス軽減とQOL向上のための支援を職員同士が工夫し合いながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議や普段の会話の中での再確認をし又1on1面談の利用、共有していき実践につなげています。	開設時に皆で考えた「利用者の笑顔を大切に心に寄り添ったケア、小さな気づきと楽しみを大切に、自尊心を大切にし安心感のあるケア」との理念をスタッフ会議などで再確認し共有している。特に「笑顔で、待つ・見守る」ことを大切にし利用者のペースに合わせた個別支援に努め理念の実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今回コロナ感染症が流行しており町内会のイベントは全部中止、運営推進会議も報告書や電話のみでの報告、平穏な日常に戻るまではその様な形にて、交流させて頂いています。	例年入居者も参加させていただいていた町内会の各種行事や地域の方にも参加いただいていたホームの秋祭りなどはコロナ禍ですべて中止となってしまった。町内会の回覧板や施設の掲示板にミモザ通信を掲示するなどホームの取り組みを地域の方々にお知らせしている。	コロナ禍終息後の地域との交流の再開と地域への貢献が待ち望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為短い時間にて、定期的なご挨拶はさせて頂いています。その際認知症の方への理解を頂き、ご協力をいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為施設での開催は出来ませんが、2か月に1度運営推進会議を行い、行政、包括、町内会長、家族に報告書と電話にて現状を報告、意見や助言を頂きサービス向上に活かしています。	2ヶ月に一度定期的に書面による運営推進会議を実施している。入居者状況、事故ヒヤリハット、行事報告などのレジメと行事や日頃の様子などの写真を添えて、福祉政策課、高齢者サポートセンター、町内会長と全家族に事前に送付し、意見や助言をいただくよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスを行う上で、解らない事や、困った時は、福祉政策課に直接電話、協力を頂いています。又サポートセンターへは、運営推進会議の報告書、ミモザ通信などの情報を提供し協力を、頂いています。	福祉政策課と高齢者サポートセンターには運営推進会議報告書やミモザ通信などを通して取り組み状況などを伝えている。PCR検査の件や予防接種アンケートなど直接電話やメールで緊密に連絡を取りあい顔の見える関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市の方から、この辺は、治安が、あまり良くないのでと聞いている為ご利用者様や職員を守る為、玄関の施錠は、行っています。又、身体拘束に関しては、研修を行い理解を深め業務に活かしています。基本拘束になる事は、していません。	身体拘束及び虐待防止に関する研修を職場30分研修計画に組み入れ年2回実施している。職員は毎回研修報告書を提出し、管理者がコメントし丁寧に疑問点に答えるなど、理解認識を深めている。身体拘束廃止適正化委員会を定期的に開催し具体的な事例について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての研修を行い理解を深めてもらい、職員とのコミュニケーションをなるべくとるようにし、穏やかな気持ちで業務にあたれるよう防止に努めています。2/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社研修や30分研修を活用し日常生活生活自立支援や、成年後見制度について学び話す時間を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や、関係機関に施設側より説明を、させて頂いてると共に、契約内容に改定が、あった場合は、その都度お話しさせて頂くか、会えない方には、お手紙で報告させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為面会禁止になっている為、家族には、お手紙、電話にて意見や、要望を聞く時間を、設け意見交換し運営に反映させている。	コロナ禍で面会できないので、日頃の生活やレク・行事の時の写真を多く載せたミモザ通信と身体面・精神面・生活面と連絡事項などの生活状況報告を毎月家族に送付している。運営推進会議報告書で施設のコロナ対策や運営状況をお知らせし意見などをいただくようにしている。家族参加の行事が実施できないため、手紙や電話で意見や要望をお聞きするなど家族との繋がりを大切にしたり取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回のペースで1on1ミーティングを行い職員の意見や提案等聞ける時間を作っています。又連絡ノートの活用、最低でも月1回のスタッフ会議での業務改善、サービスの向上に努めています。	毎月のスタッフ会議や2ヶ月に一度の1on1ミーティングなど職員の意見や提案を聞く仕組みが機能している。シフトによる業務内容の変更や駐車場・テラス活用のレクなど職員提案を反映させている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、職員が自由に意見を出し合える職場作りに努めており、開設当初からの職員が多く離職者が少ない。職場30分研修や本社研修所でのスキルアップ研修受講やアロー委員会制度による業務担当を行うことで給与に反映させるなど職員育成に力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々が担当を持ち業務を行うことで、お給料に反映又、当社就業規定にて、資格や本社開催の研修受講等の参加も(現在コロナの為WEBにて参加)含め定期的に公平な評価を行い向上心を持って働いて頂けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社には、スキルアップ研修や他にもいろいろな研修が充実しています。職員の希望で受講でき又時給にも反映されています。施設内では、職員1人1人とのコミュニケーションを大切に心のケアや指導を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市川市で行う研修会(現在は、コロナの為WEBで行っています。)などの参加や近隣のグループホームの情報交換などを利用し、ネットワークやサービスの向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人との面談を行うと共にご家族と関係者からも希望や要望など聞きお話しさせて頂き関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が現在抱えている不安や要望、困っている事など当サービスを利用する事や会話の時間を取る事で安心して頂けるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にお話しさせて頂き必要とされる支援を見極め出来る限りのことは、させて頂くよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを出来る限り取りながら信頼関係を深め、職員は、第二の家族として接し、ご利用者様には、家族と思ってもらえるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、コロナの為面会など禁止になっているので、電話やお手紙に写真添付し、ご利用者様の些細な変化などご報告させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常ならご利用者様は、ほとんどが、地元の方で、近くの公園のイベントなどに、積極的に参加させて頂き馴染みの人や場所との関係が、途切れないようお会いし話せる機会の支援に、努めていますが現在コロナがあり電話での対応をさせて頂いています。	コロナ禍のため近くの公園に出かけての馴染の方との出会いの支援などができない。携帯電話のお世話や電話が掛かってきた時は出来るだけご本人に取り次いでお話をさせて頂くよう支援している。手紙のやり取りの支援など馴染の関係を継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操レクやカラオケ、小さな菜園での野菜作りなど1階、2階合同でのレクで交流をもちご利用者様同士楽しめる時間を作ることで、関わり合い、支えあえる支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退院のめどが、立たずに、退居になってしまった方への現在の状況や、困っていることは、無いが、月1ですが、連絡させて頂いています。その為今年も家族から年賀状を、頂きました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら思いや希望、意向など把握し出来る限り、反映できるよう努めています。伝えられない利用者様は、「はい、いいえ」や首を振るだけで分かるような質問をし意思の確認を行っている。表情からも読み取れるよう努めている。	家族からの情報に併せ、実際の生活の中で入居者の意向を把握することを重視して取り組んでいる。毎日の普通の会話やゆったりした気分での入浴介助時などの関わりの中で、入居者の気持ちや希望をさりげなく聞きとるようにしている。コミュニケーションの取りづらい入居者には、相性の良い職員が関わることにより、希望や思いの発出につなげている。入居者の言葉や表情・言動の変化などの気づきは、その都度、介護記録に記載して職員間の共有を図り、ケアプラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂いた情報の把握を元にご利用者様本人からも把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の1日のペース等の把握、日々の変化、表情を見逃さないように、観察を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、アセスメント実施、日々の申し送りやミーティング時に気づきや普段と違う言動など話す時間を設け、ケアの在り方を計画作成者を中心に、スタッフと検討ご家族の承諾を得て介護計画としています。	入居者、家族の意向に沿って、主に健康面、身体面、精神面、生活面からケアプランの目標を設定している。2か月ごとに短期目標毎の状況変化、満足度、達成度、課題について計画作成担当者がモニタリングを実施している。サービス内容の実施状況や達成度は介護記録や申し送り時の職員からの情報を集約し、カンファレンスで職員の意見を取り入れ、入居者の笑顔や楽しみにつながるケアプランの見直しを行っている。また、業務日誌にケアプランを添付し、職員が常にケアプランを意識してケアにあたるような新たな工夫がみられる。	身体面、精神面、生活面についてのコメントを介護職員が「生活状況表」に記載して、「ミモザ通信」に併せて家族あてに毎月送付している。今後は、「生活状況表」に計画作成担当者のコメント欄を設けるなど、家族のケアプランへの関心を高めるための取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を整備、気づきや情報等申し送りや連絡ノートで共有し必要に応じて、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望に添えるような柔軟な、対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のゴミゼロのイベントなどに参加し、交流も多く、日々の暮らしが楽しめる支援を行うようにしています。(現在は、コロナの為中止しています。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と24時間対応の協力病院と連携を取り合い速やかに受診が、行えるよう支援。他に、精神科、皮膚科、眼科、歯科、リハビリも行っています。(体調管理、消毒などの徹底感染症対策をしています。)	月2回の訪問診療時には、管理者等が同席し、入居者の直近の健康状態や相談事項を医師に伝え、円滑な受診支援を行っている。医師からの指示事項や受診内容は、「訪問診療記録」に記載し、受診後、業務日誌や連絡ノートに転記して職員間の情報共有を図っている。家族あてに毎月「生活状況表」を送付し、入居者の身体面、精神面の健康状態を報告している。また、かかりつけ薬局の薬剤師と連携し、正確な服薬支援に努め、ダブルチェックなどの誤薬対策に力を入れて取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護を受けており情報や相談等看護が適切に受けられるよう密に連絡を取っています。看護記録も使用。(体調管理、消毒などの徹底感染症対策をしています。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し情報交換を、常に行っています。又早期に対応できるように相談に努め、入院時には、介護サマリー等の提供をしています。まめに入院先への連絡を行い現状の把握を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約提携時に重度化した場合について当施設の方針と内容について説明し、同意書を交わしています。併せて、看取りの説明や治療方針についてもご本人と家族から、同意を得ています。(現在は体調管理、消毒などの徹底感染症対策をしています。)	契約時に「重度化対応・看取り介護指針」にて、ホームの重度化対応の考え方や看取り体制について説明し、入居者・家族の同意を得ている。重度化した際には改めて家族の意向を聞きとり、ホームでの対応の説明を行い、主治医と家族との相談の上、看取り介護を実施している。重度化しても「その人らしい」生活を送れるように、看取りのケアプランを作成し、主治医・訪問看護師、職員が協働し、孤独感や不安を少なくするための精神的ケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフの目に入る場所に緊急マニュアルを置き、30分研修やミーティングなど行い迅速な対応が出来るよう備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間帯を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の地域の方には、お手紙を入れさせて頂き、協力をお願いしています。	日中及び夜間火災を想定した消防避難訓練を年2回実施している。1階・2階の夜勤者が初期消火・通報・誘導などの役割を分担し、実践的な夜間想定避難訓練を実施している。同時に連絡網応援要請訓練を実施し、5分以内に応援可能な職員の確認を行っている。訓練後は避難誘導に要した時間の確認、車いすの入居者の非常口までの誘導法などの課題や反省点を報告書に整理して対策を図っている。3日分の水・アルファ米などの非常用備蓄品を用意し、消費期限を定期的に確認して災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様1人1人の人格を尊重しその方 にあった対応や声掛けを職員は、心掛けて います。	キッチンでの手伝いなど入居者のやりたいことを やってもらい、笑顔につながる支援を心がけて入 居者と接している。編み物や庭園で花を愛でなが らの土いじりやテラスでのお茶会など、入居者は 思い思いに好きなことを楽しんでいる。また、職員 はあえて手を出さずに、入居者の発言や行動を 「待つ」ことを大切にした支援を心がけている。昼 夜逆転の生活リズムの改善のために、居室での 寝たきりの時間を少なくし、リビングでの体操や会 話に誘うなど、入居者の心身状態に沿った支援も 行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	ご利用者様が気軽に意思表示や希望等伝 えられるよう、その方のペースに合わせ聞く ように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムなど乱れない様留意しながら、ご 利用者様の希望する1日が過ごせるよう1 人1人のペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	その日の服装などなるべくご本人が、選ん で頂けるように、声掛けをし、なやんでいる ときは、一緒に選んだりしています。又季節 感やバランスなどで、悩まれている方には、 アドバイスさせて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	好きな物、嫌いな物、禁止食は、事前把握、 納豆などは、五目豆に変えて頂くなどの配 慮を行っています。食事の準備や片付けな どは、個々に出来る物をお手伝い頂いてい ます。職員は、ご利用者様と一緒に食事を 摂るようにしています。	コロナ禍以前は、職員は入居者への声掛けと会 話をしながら楽しく温かい雰囲気の中での食事提 供を行っていた。調理の好きな入居者は、厨房で 自ら炒飯を料理したり、配膳・下膳・食器洗い・ テーブル拭きなどレベルに合わせて積極的に食 事の手伝いを行っている。誕生会やバレンタイン などの行事には、入居者と職員と一緒にケーキ 作りをして楽しんでいる。また、入居者の希望を取 り入れ、メニューの変更にも柔軟に対応し、食事の 変化を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	毎日の食事、水分量を記録、排泄チェックも 行っている。必要に応じて、キザミや、お粥 など、その方に合う方法で、摂取して頂ける よう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後に口腔ケアの声掛けを行い、チェック表 に記入。困難な方は、職員の介助にて口腔 ケアを行っています。又、毎週木曜の訪問 歯科医師に相談、アドバイスなども頂いてい ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録、排泄パターンの把握と共に失敗をなくし、清潔に保つことが出来る為にも早めの声掛けを行っています。又排泄から見える、体調の変化にも留意しています。	各ユニットの3か所のトイレの扉には、混乱せずにトイレの場所が一目でわかるように、大きな文字と色つきのイラストが掲示され、排泄の失敗の減少につながっている。排泄チェック表を活用して定時及び早めの声掛けを行い、入居者の羞恥心にも配慮してトイレ誘導を行っている。また、健康管理と清潔保持のために排便管理には特に力を入れて取り組んでいる。水分管理、体操、室内歩行などによる便秘対策や一人ひとりに合わせた緩下剤の投与などの対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握し、食事内容、水分摂取、体操などの声掛けを、行い解消に努めている。便秘が続く場合は、連携病院への相談にて指示を頂き薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午前中に入浴と基本は、ありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて曜日の変更や時間の変更を行い、希望に添えるよう行っています。又入浴剤を毎日変え、色や匂いを楽しんで頂いています。	機械浴の設備があり、車いすの入居者も座ったまま安心して浴槽への入浴が可能である。原則、毎週2回、午前中に入浴を楽しんでおり、その日の気分や体調に応じて時間や曜日の変更を行っている。入浴時には、手が届くところでの見守りを徹底し、思い話などの会話をしながら入浴支援を行っている。フルーツの香りや季節感を味わえる色々な入浴剤を使用し、落ち着いた気分で入浴を楽しめるように配慮している。その結果、ほとんどの入居者が喜んで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様個々の生活習慣に合わせ、生活リズムが、乱れない様留意しながら、自由に居室で、休んで頂いたり、休息して頂き、安眠出来るように室内の照明管理に、努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を1包化して頂き、内服薬の最新の情報を個人ファイルに管理し、職員全員が閲覧出来るようにし、服薬事故の無い様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に季節に合ったレク、体操、歌、野菜作りなどを提案し、楽しんで頂いている。ご自身で出来る事はして頂き、自立支援している。(洗濯たたみ、フロアの掃除機かけ、お茶パック詰め等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナの為近隣の公園の散歩は中止していますが、施設の駐車場内使用しレクを企画し、他にテラスでの外気浴、季節を感じて頂いている。	コロナ禍以前は、天気の良い日は近くの公園への散歩や季節毎の梅・サクラ・あやめ見物に出かけ、和食レストラン等への外出行事も定期的に行っていた。また、食材やおやつ購入のために近くのスーパーへ買い物に出かけることもあった。現在は、テラスでの外気浴や入居者同士のティータイムを楽しんだり、ミニ菜園での水遣りや土いじりでストレス解消を図っている。今後は、五感の刺激を図り生活にメリハリをつけるために、施設内の駐車場を利用したレクレーションを企画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金紛失防止として、基本的に事務所の金庫にてお預かりしている。(医療費やお菓子、他)等に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の中には、携帯電話を持っている方もおりご自身で家族に電話されています。又ご家族や友人から、手紙や電話が、来ることもありやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気候にあった温度管理や雰囲気作りをし、過ごしやすい生活空間を提供出来るように、常に工夫しています。	玄関には近所の方の手作りの飾りや入居者が制作した飾りがお客様を出迎えている。リビングにも入居者の制作した梅の花の飾りやぬり絵などが飾られ、季節感を感じさせる雰囲気を醸し出している。開放感のある共有空間づくりを心がけ、入居者はテラスや庭へ自由に出入りしている。入居者同士の相性や性格、コミュニケーション力などを考慮し、穏やかな時間を過ごせるようにテーブル席の配置の変更を随時おこなっている。また、室内の換気、テーブル・手すり等の消毒や湿度管理など、コロナ対策も徹底して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、ソファで、くつろげる空間づくり、テラスには、椅子とテーブルを置き天気の良い日は、出入りも自由にティータイムを楽しんで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の部屋として、自由に家具や、調度品を持ち込んで頂き、居心地よく安心して暮らせるよう配慮しております。各居室には、職員を呼ぶためのコールを設置されています。	居室には家族の協力により、使い慣れた家具や家族の写真、手紙などが持ち込まれ、これまでの生活の継続を感じられるように配慮している。また、好きなスターのポスターや折り紙、ぬり絵などの自分の制作物も飾られ、部屋を明るくしている。居室内での転倒を防ぐために、立ち上がり易い位置にベッドの向きを変えたり、つかまり易い位置に家具を置くなどの工夫を図っている。毎朝の換気と掃除により清潔な居室づくりに努め、掃除やシーツ交換を手伝う入居者もみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部には段差もなく車椅子や歩行器生活の方でも、自由に動けるようにされており、外出することもできます。浴室は1・2階共、機械浴式浴槽を設置してある。居室毎に、表札を付けるなど分かりやすい表示をしています。		

## 目標達成計画

作成日: 令和 3 年 2 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		1階と2階のスタッフのスキルレベルに差があり差を埋めしていきたい。	スキルの差を埋める。	月に1階のスタッフ会議を30分から1時間に時間を延長しスキルアップに努める。	12ヶ月
2		昨年よりコロナの為室内で過ごしているご利用者様のストレスやスタッフのストレス溜まってきていることに対して。	ストレスを軽減し笑顔で過ごす。	レクや行事の頻度を増やす。駐車場を使用外でのレクや施設内で合同レクなど。	随時ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。